令和三年学力検査

全日制課程　A

第一時限問題　国語

検査時間　九時十分から九時五十五分まで

「解答始め」という指示があるまで、次の注意をよく読みなさい。

注　意

(一) 解答用紙は、この問題用紙とは別になっています。

(二) 「解答始め」という指示で、すぐ受検番号をこの表紙と解答用紙の決められた欄に書きなさい。

(三) 問題は(1)ページから(9)ページまであります。(9)ページの次からは白紙になっています。受検番号を記入したあと、問題の各ページを確かめ、不備のある場合は手をあげて申し出なさい。

(四) 答えは全て解答用紙の決められた欄に書きなさい。

(五) 印刷の文字が不鮮明なときは、手をあげて質問してもよろしい。

(六) 「解答やめ」という指示で、書くことをやめ、解答用紙と問題用紙を別々にして机の上に置きなさい。

受検番号
第　　番

国語

一　次の文章を読んで、あとの(一)から(六)までの問いに答えなさい。

1

2

著作権に配慮して掲載を控えています

3

4

著作権に配慮して掲載を控えています

5

著作権に配慮して掲載を控えています

6

著作権に配慮して
掲載を控えています

（角幡唯介『旅人の表現術』による）

（注）
○ 1～6は段落符号である。
○ ピッケル＝つえの先に金具がついた、氷雪の上に足場を作るときや体を支えるときに用いる登山用具。
○ アイゼン＝登山靴の底に取り付ける滑り止めの金具。
○ クサったザラメ雪＝ここでは、日中に溶けた雪が日没後に再び凍結し、それが繰り返されてできる積雪のこと。
○ 颯爽と＝見た目にさわやかで勇ましいさま。
○ ショッピングモール＝多くの小売店が集まった大規模な複合商業施設。
○ ニュアンス＝微妙な意味合い。
○ 範疇＝同じ種類のものが全て含まれる領域。
○ 無頼＝無法な行いをすること。
○ 混沌＝区別がつかず、入り混じっている状態。
○ ダイレクトに＝直接であるさま。
○ シビアな＝厳しいさま。
○ 屹立＝高くそびえ立つこと。

(一) ①まぶしかった とあるが、そこには「私」のどのような気持ちが表れているか。その説明として最も適当なものを、次のアからエまでの中から選んで、そのかな符号を書きなさい。

ア 突然斜面に現れたスキーヤーに驚くとともに、訓練中の自分よりずっと洗練された滑りを見て、ねたましく思う気持ち

イ 訓練中の自分と比べると、目の前のスキーヤーはあまりに技術のレベルが高く、簡単には追いつけないと落胆する気持ち

ウ 訓練中の自分とは対照的に、斜面を見事に滑走していくスキーヤーの姿に心を引かれ、とても美しいと感じる気持ち

エ 広大な斜面を難なく滑り降りるスキーヤーを見て、訓練中の自分の未熟さに気づき、早く上達したいと強く望む気持ち

(二) 〔A〕、〔B〕にあてはまる最も適当なことばを、次のアからカまでの中からそれぞれ選んで、そのかな符号を書きなさい。

ア もちろん　イ しばらく　ウ いっぽう　エ たとえ

オ もはや　カ せめて

(三) ②「非登山的」な試みである とあるが、筆者がこのように考える理由として最も適当なものを、次のアからエまでの中から選んで、そのかな符号を書きなさい。

ア 弾丸登山の自粛呼びかけや入山料の徴収は、日常生活とは対極にある登山をスポーツとして世の中に示すための行為であるから。

イ 弾丸登山の自粛呼びかけや入山料の徴収は、命の危険を顧みようとしない登山者に強く警告を与えることになるから。

ウ 弾丸登山の自粛呼びかけや入山料の徴収は、人間の制御がきかない自然に対して主導権を握ろうとする危険な行為であるから。

エ 弾丸登山の自粛呼びかけや入山料の徴収は、文明社会の外に出る登山という行為を人間が決めた規則で管理することになるから。

(四) 筆者は第五段落で、登山の自由について述べている。それを要約して、六十字以上七十字以下で書きなさい。ただし、「離脱」、「責任」、「裁量」という三つのことばを全て使って、「登山の自由とは、……」という書き出しで書き、「……ものである。」で結ぶこと。三つのことばはどのような順序で使ってもよろしい。

(注意) ・句読点も一字に数えて、一字分のマスを使うこと。
・文は、一文でも、二文以上でもよい。
・左の枠を、下書きに使ってもよい。ただし、解答は必ず解答用紙に書くこと。

登	山	の	自	由	と	は	、

60　70

(五) この文章中の波線部の説明として最も適当なものを、次のアからエまでの中から選んで、そのかな符号を書きなさい。

ア 第三段落の「たしかに一理あったのかもしれない」は、昔の登山者が人間社会のことを「下界」と呼んだからといって、彼らを反社会的存在とみなすのは誤りであったことを言い表している。

イ 第四段落の「特殊な作法」は、何が起こるかわからない不安定な状況の中にあえて身を置き、未知の世界を経験することが登山という行為であることを言い表している。

ウ 第五段落の「ダイレクト」「イメージ」「シビア」「キーワード」は、外来語を多用することで、現在の富士登山の問題が世界的な広がりをもっていることを言い表している。

エ 第六段落の「単なる地形上のでっぱり」は、日本最高峰の富士山をありふれたもののように表現することで、富士山に対する社会の関心が失われていることを言い表している。

(六) この文章中の段落の関係を説明したものとして最も適当なものを、次のアからオまでの中から選んで、そのかな符号を書きなさい。

ア 第二段落では、第一段落に続いて雪山での体験を示したのち、冬の登山で登山者が留意すべきことについて説明している。

イ 第三段落では、第二段落までの富士登山の体験を踏まえて、日常と非日常という視点から山に登ることの意味を述べている。

ウ 第四段落では、第三段落とは異なる視点から現在の富士登山の問題を述べ、登山による自然破壊から富士山を守るよう主張している。

エ 第五段落では、第四段落の内容とは異なる登山の厳しさについて説明し、文明の力を過信した登山者に注意を促している。

オ 第六段落では、第五段落で示した登山の自由を守るために、登山者にとって不自由な規則をいかに運用するかを説いている。

二 次の(一)、(二)の問いに答えなさい。

(一) 次の①、②の文中の傍線部について、漢字はその読みをひらがなで書き、カタカナは漢字で書きなさい。

① 後半が始まった直後に得点が入り、試合の均衡が破られた。

② 彼は自らつくった劇団をヒキいて公演を行った。

(二) 次の文中の〔 ③ 〕にあてはまる最も適当なことばを、あとのアからエまでの中から選んで、そのかな符号を書きなさい。

叔父は温厚〔 ③ 〕な人柄で、誰からも慕われている。

ア 折衷　イ 倹約　ウ 一遇　エ 篤実

三　次の文章を読んで、あとの(一)から(五)までの問いに答えなさい。

1

2

著作権に配慮して掲載を控えています

3

4

著作権に配慮して掲載を控えています

6　5

著作権に配慮して掲載を控えています

著作権に配慮して
掲載を控えています

石井美保（いしいみほ）「あいづちと変身」による）

（注）
○ 1〜6は段落符号である。
○ なりわい＝生活をしていくための仕事。
○ 人類学者＝文化人類学を研究している人。
○ タンザニア、ガーナ＝ともにアフリカ大陸にある国。
○ 口蓋＝口の中の上側の部分。
○ 間投詞＝ことばの間や切れ目に入れて用いられることば。
○ ／＝ここでは、「又は」の意味で用いられている記号。
○ 呪術＝超自然的、神秘的なものの力を借りて、望む事柄を起こさせる行為。
○ フィールドワーク＝野外などの現場や現地で行う調査・研究。
○ タラル・アサド＝サウジアラビア出身の人類学者。
○ フィールドノート＝フィールドワークの記録。
○ プロセス＝過程。

(一) ①日本で思わず現地語が出てきちゃうケース とあるが、このようなことが起こる理由として最も適当なものを、次のアからエまでの中から選んで、そのかな符号を書きなさい。

ア 人類学者は調査地で、長期間住み込んで調査を行うため、日本に戻ってもしばらくは頭が現地語から日本語に切り替わらないから。

イ 人類学者は調査地で、現地の人びとの声音や身ぶりをまねることで言葉を学んでいくため、現地語が身体に深く染み込んでいるから。

ウ 人類学者は調査地で、現地語と日本語の両方を使うため、日本語の語彙に現地語が自然に取り込まれて違和感を感じなくなるから。

エ 人類学者は調査地で、身ぶりに近い間投詞からまず覚えるため、日本に戻ったあとも感情を表現するときは現地語が便利であるから。

(二) [②] にあてはまる最も適当なことばを、次のアからエまでの中から選んで、そのかな符号を書きなさい。

ア 肝を冷やした　　イ 頭を抱えた

ウ 肩をすぼめた　　エ 目を細めた

(三) ③自分の身体感覚や世界認識そのものが揺らぎ、不安定化していくような経験 とあるが、その説明として最も適当なものを、次のアからエまでの中から選んで、そのかな符号を書きなさい。

ア 自文化では現実とは考えられていない超自然的な世界について現地の人たちと語りあううち、いつのまにか自文化の理解が誤ったものであると感じられる経験

イ 異文化の言葉や概念の中で長く暮らすうちに異文化の世界を外側から観察する視点が失われていき、しだいに精霊たちの住む神秘的な世界に取り込まれてしまう経験

ウ 異文化の豊かで多義的な言葉を学びながら呪術師や精霊の住む世界にふれるうちに、いつのまにか母国語を通して身につけた他者や世界との関わり方が変化していく経験

エ 調査地の言葉や概念を母国語に翻訳して自国の人びとに伝えようと試みる中で、自文化の独特な世界観を超えた新たな文化のにない手となる可能性が感じられる経験

(四) 第六段落の内容を説明した次の文の [ ] にあてはまる最も適当なことばを、第六段落の文章中からそのまま抜き出して、四字で書きなさい。

> 異文化の言語を自分のものにしていく際には、異文化に生きる「私」と自文化に生きる私との間の [ ] がくりかえされ、しだいに新しい自分が生み出される。

(五) この文章の内容がどのように展開しているかを説明したものとして最も適当なものを、次のアからオまでの中から選んで、そのかな符号を書きなさい。

ア 異文化の言語が身についていく過程を自らの体験を通して示し、言語学習によって文化への認識が変わることを論証した上で、その認識の変化が人間を成長させると主張している。

イ 異文化や他者に対する認識を変えることの意義を述べ、別の学者の考えを紹介した上で、機械的な翻訳を行うことが異文化を理解する際の基本となることを主張している。

ウ　言語と身体の関係にふれ、言語学習によって生じる身体感覚の変化を説明した上で、異文化の言語を身につけるためには全身で他者や世界と関わる必要があると述べている。

エ　ある土地で暮らしながら異文化を学んだ経験を紹介し、言葉や概念を学ぶことの難しさを指摘したあとで、異文化の言葉を自国の人びとに伝えられる喜びについて述べている。

オ　調査地での不思議な体験を紹介し、自分がその文化に取り込まれた過程を説明したあとで、全身で格闘することでしか自国の文化を本当に理解することはできないと述べている。

四 次の古文を読んで、あとの(一)から(四)までの問いに答えなさい。（本文の ------ の左側は現代語訳です。）

もろこしに道林禅師といへる人は、この世のあまりにはかなきことに堪へわびて、木の末にのみ住み侍りしを、白楽天見侍りて、①鳥の巣の禅師などと名付けて、「和尚の栖あまりに危ふく見えて侍る物かな」と云へば、和尚答ふ、「汝がこの世を忘れて交はり暮らすこそ②猶危ふけれ」と云へり。また、楽天問ふ、「いかなるかこれ仏法」と。和尚答ふ、「諸悪莫作諸善奉行」。楽天云ふ、「このことわりは、三歳の嬰児も知れり」。和尚云はく、「知れることは、三歳の嬰児も知れり。行ずることは、八旬の老翁もまどへり」と云へれば、③白楽天三礼して去れり。

中国
耐えられなくなって
住んでいる所
お前
もっと
道理
幼い子
もろもろの悪を行うな
もろもろの善を行え
八十歳

（『ひとりごと』による）

（注）○ 道林禅師＝唐代の僧。　○ 白楽天＝唐代の詩人・官吏。
○ 和尚＝修行を積んだ僧。

(一) 白楽天が①鳥の巣の禅師と名付けた理由として最も適当なものを、次のアからエまでの中から選んで、そのかな符号を書きなさい。

ア 山寺にこもっていたから。　イ 樹上を居場所にしていたから。
ウ 世間を見下していたから。　エ 森の中で修行をしていたから。

(二) ②猶危ふけれ とあるが、和尚はどのようなことに対して危ういと言っているのか。その説明として最も適当なものを、次のアからエまでの中から選んで、そのかな符号を書きなさい。

ア 時間を忘れてひたすら友人と一緒に詩を作ってばかりいること
イ 人を思いやるというこの世で最も大切なことを忘れていること
ウ この世のはかなさを意識することなく人々と交遊していること
エ 限りある命であることを知らずに何となく修行をしていること

(三) ③白楽天三礼して去れり とあるが、その理由として最も適当なものを、次のアからエまでの中から選んで、そのかな符号を書きなさい。

ア 奇抜な行動をする道林禅師が、実は優れた見識をもっていることがわかったから。
イ 優れた詩人でもある道林禅師が、それとなく詩作の極意を伝授してくれたことに気づいたから。
ウ 道林禅師が自分と同じ考えをもっていることを知り、仲間意識が芽生えたから。
エ 道林禅師の発言は仏教を軽んじているが、その裏に自分自身への厳しさが感じられたから。

(四) 次のアからエまでの中から、その内容がこの文章に書かれていることと一致するものを一つ選んで、そのかな符号を書きなさい。

ア 悔いのない人生を送るためには、善行を積み重ねる必要がある。
イ 危険を冒して修行を積めば、他者を救う力を身につけられる。
ウ 徳を積んだ僧に対しては、どんなときも敬意を忘れてはならない。
エ 仏の教えは誰でも知っているが、簡単に実行できるものではない。

（問題はこれで終わりです。）

令和三年学力検査　解答用紙　全日制課程A

第一時限　国語

一

(一)

(二) A（　　）B（　　）

(三)

(四)

登山の自由とは、

70　60

(五)

(六)

※一　1点×4　2点×2

二

(一) ①

(二) ③

(一) ②

いて

※二　1点×3

三

(一)

(二)

(三)

(四)

(五)

※三　1点×3　2点×2

四

(一)

(二)

(三)

(四)

※四　1点×4

受検番号	第　　番
得点	※

(注) ※印欄には何も書かないこと。

第１時限　国語正答　全日制課程　A

一

設問	正答
(一)	ウ
(二)	A（ア）B（オ）
(三)	エ
(四)	登山の自由とは、社会の管理から自主的に離脱する以上、自分の責任で判断し、自分の裁量で命を管理しなければならない苦しいものである。
(五)	イ
(六)	イ

(四)の解答欄の下に「60」「70」と字数の目安が印刷されている。

二

設問		正答
(一)	①	きんこう
(一)	②	率（いて）
(二)	③	エ

三

設問	正答
(一)	イ
(二)	ア
(三)	ウ
(四)	往復運動
(五)	ウ

四

設問	正答
(一)	イ
(二)	ウ
(三)	ア
(四)	エ